



美しい 県土づくりNEWS

目次

- 2 道路開通予定情報をお知らせします！
- 3 高田松原地区震災復興祈念公園構想会議を開催しました！
- 5 大船渡港湾口防波堤着工式を開催！
- 6 一関工業高等学校土木科1・2年生による沿岸部現地調査
- 7 被災者向け「住宅再建相談会」を開催しました！
- 8 [michi-co](みち・こ)創刊号のお知らせ
- 9 「森と湖に親しむ旬間」イベントのご案内
- 10 3県(岩手、宮城、福島)土木部長等合同要望



岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第96号
平成24年7月27日発行
編集 県土整備企画室

三陸復興

一般国道340号土淵バイパス 一部区間開通！

～ 復興支援道路 遠野かっぱロード 復興へ続く道 ～

平成24年7月22日、遠野市土淵町で事業中の一般国道340号土淵バイパス(愛称:遠野かっぱロード)の一部区間が開通しました。

本路線は、昨年の東日本大震災津波時に、後方支援拠点である遠野市と沿岸の津波被災地を結ぶ路線として重要な役割を担ったほか、岩手県東日本大震災津波復興計画「復興実施計画」において、復興支援道路と位置付けられるなど、三陸沿岸地域の復旧、復興を進めていく上で重要な路線となっています。

当日は、現地で開通式が行われたほか、前夜には、遠野市民の皆さんのメッセージを込めた2000個の「復興の灯火」が飾られました。



道路開通予定情報をお知らせします!

～今年度も県内各地で開通予定～

道路建設課

一般国道340号土淵バイパスの一部区間の開通をはじめとして、今年度も県内各地で道路の開通を予定しています。事業箇所の概要と開通予定時期についてお知らせします。

あくまでも現時点の予定ですので、諸事情により変更となる可能性があります。開通後は随時、道路建設課HPにて公表する予定です。

(道路建設課HP: <http://ftp.www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=780&jk=3&pnp=66&pnp=780>)

《記載内容》

路線名 事業箇所
市町村名 全体延長
今年度開通延長 開通予定時期
本工区の開通効果(見込み)

- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道

主要地方道盛岡和賀線 笹間
 花巻市 L=6.5km(4.5km 開通済)
 L=2.0km(全線開通)
 平成25年3月
 隘路区間の解消による円滑な交通と歩行者の安全性を確保

主要地方道花巻衣川線 森下
 平泉町 L=0.6km
 L=0.6km(全線開通)
 平成24年12月
 平泉の文化遺産を構成する長者ヶ原廃寺跡及び奥州市衣川区中心部へのアクセス向上

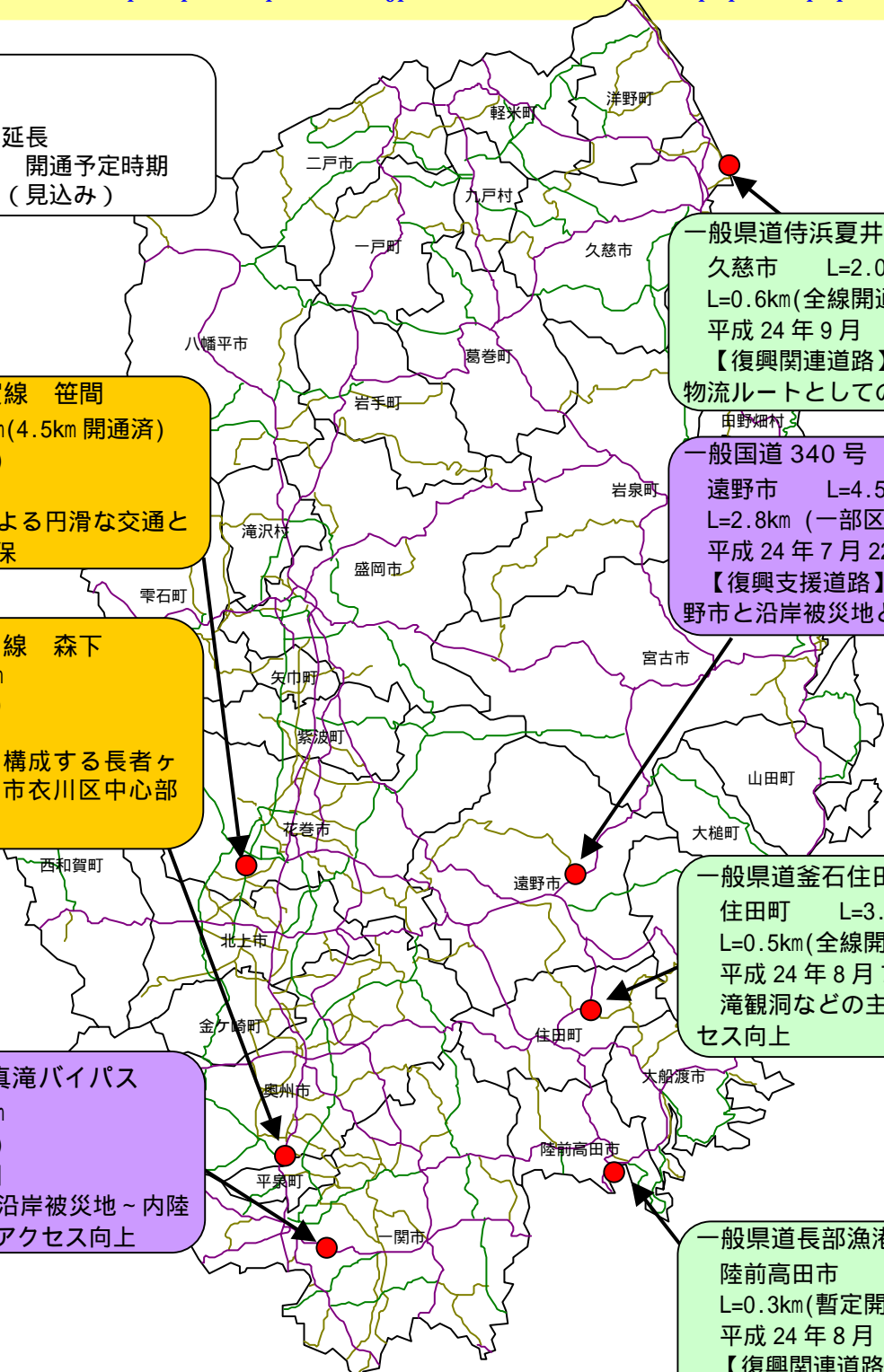
一般国道284号 真滝バイパス
 一関市 L=1.8km
 L=1.8km(全線開通)
 平成24年8月7日
 【復興関連道路】沿岸被災地～内陸部及び工業団地へのアクセス向上

一般県道侍浜夏井線 本波
 久慈市 L=2.0km(1.4km 開通済)
 L=0.6km(全線開通)
 平成24年9月
 【復興関連道路】水産物の輸送等、物流ルートとしての機能向上

一般国道340号 土淵バイパス
 遠野市 L=4.5km
 L=2.8km(一部区間開通)
 平成24年7月22日(開通済み)
 【復興支援道路】後方支援拠点の遠野市と沿岸被災地とのアクセス向上

一般県道釜石住田線 金ノ倉～山脈地
 住田町 L=3.4km(2.9km 開通済)
 L=0.5km(全線開通)
 平成24年8月7日
 滝観洞などの主要観光地へのアクセス向上

一般県道長部漁港線 長部
 陸前高田市 L=0.3km
 L=0.3km(暫定開通)
 平成24年8月
 【復興関連道路】漁港・水産加工団地へのアクセス向上



高田松原地区震災復興祈念公園構想会議(第1回)

を開催しました

都市計画課

岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画では、東日本大震災津波の記憶を未来へ語り継ぎ、故郷への思いを継承するメモリアル公園等の拠点施設の整備を掲げています。東日本一帯に壊滅的被害をもたらした今次津波においては、鎮魂と追悼に加え、津波防災の文化を国内外に発信していくことが必要不可欠です。県では、平成23年12月以降、陸前高田市の高田松原地区を候補地として、**国営によるメモリアル公園の整備を国に提言**してきたところです。

国家的な事業としてメモリアル公園を実現するためには、地元の熱意とともに、本県独自の具体的な提案を行っていくことが必要と考え、**有識者と陸前高田市の市民代表による「高田松原地区震災復興祈念公園構想会議」を設置**しました。今後、この構想会議を軸にしながら、民間・NPO等との連携も含め、国営公園の実現に向けて検討し、国に働きかけていくこととしています。



<第1回会議(平成24年7月3日)の様子>

■委員の構成(五十音順) ◎:座長

<有識者>

池邊 このみ	千葉大学大学院教授
牛山 素行	静岡大学防災総合センター副センター長・准教授
◎中井 検裕	東京工業大学大学院 教授
内藤 廣	東京大学 名誉教授
本多 文人	陸前高田市立博物館長

<地元代表者>

伊藤 明彦	陸前高田市議会議長
佐々木 美代子	陸前高田市地域女性団体協議会会長
高橋 勇樹	陸前高田青年会議所前理事長
中井 力	陸前高田商工会事務局長

■事務局

- ・ 陸前高田市建設部都市計画課
- ・ 岩手県県土整備部都市計画課、河川課
- ・ 岩手県農林水産部森林保全課

■ 委員会における論点と主な意見

【論点1】 津波防災文化の醸成と継承

○地元代表

- ・ 子供たちの防災教育の観点から「命の尊さ」をコンセプトとし、人工的な手を加えないエリア(サンクチュアリ)を設け、自然の再生力を見せる場をつくることが重要。
- ・ 津波災害の事実と精神的ダメージを手記として記録に残す取組みを行っているが、これを保存し津波防災文化として伝えていくことは絶対必要。



○有識者

- ・ 明治や昭和の津波の記録が数多く残されているにもかかわらず、今回も大きな犠牲が発生した。災害の歴史の風化、災害の記録の風化が災害を生んでいる。この経験を伝えていくことは、生き残った我々の責務。
- ・ 陸前高田がこれまで継承してきたものが津波文化であり、松原だけでなく高田の後背地域が刻んできた文化を反映した公園とすべき。
- ・ 災害と積極的に向き合う視点も必要で、公園利用者の避難のあり方についても議論が必要。
- ・ 綺麗な公園が整備され、松原が再生されると、何事もなかったように見えてしまう。そこをどのように超えるかが課題。防災文化を風化させないことに尽きる。

【論点2】 陸前高田における震災復興祈念公園の意義

○地元代表

- ・ 生活の一部となっていた高田松原を失うことは自宅を失う以上のショックだった。自然環境や景観に配慮して再生することは、市民の悲願。
- ・ 市民にとって高田松原再生の思いは一致している。市民の心の支えとなっている一本松の子孫を残し、子供たちが育て、見守ることにより、「命をつなぐ」ということを伝えることができる。

○有識者

- ・ 陸前高田は、市街地の人口の30%の方が亡くなり、他に例の無い壊滅的被害を受けている。国営の祈念公園の設置にあたっては、このことに向き合い、明確にすることが必要。
 - ・ 技術立国日本として、松原再生の先端技術を世界に示す場として位置づけることも必要。
 - ・ 防災に関わる人材の育成は急務。国も関わりながら公園エリアを防災研究のフィールドとして活用し、陸前高田に研究施設や研修施設を誘致することもできるのではないかと。地域経済にもプラスの効果をもたらす。
 - ・ この区域は、管理や整備の主体が重層的で複雑。管理の仕組みなどについても、これまでの縦割りではなく、新しい方法が必要ということも議論し、あり方として示していくことも必要。
 - ・ 文化というソフトなものを実際の空間である公園をどのようにつないでいくか。様々な動きや試みをうまく束ねて国営公園の提言としてまとめることが重要。
- <以上>

第2回会議は、市民フォーラム形式での開催(9/2(日)@陸前高田市)を予定しています

大船渡港湾口防波堤災害復旧事業着工式を開催

～ 東日本大震災津波からの復興に向けて ～

港湾課

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波により、大船渡港では、湾口防波堤が倒壊するなど、港湾施設に甚大な被害を受けました。この度、被災した**大船渡港湾口防波堤の災害復旧事業**に着手することとなり、**平成 24 年 7 月 14 日に着工式**を開催しました。

大船渡港湾口防波堤の復旧にあたっては**ねばり強い構造・水質環境に配慮した構造**とすることとしており、平成 27 年度の復旧工事完了を目指し、国による整備が進められます。



【参考】

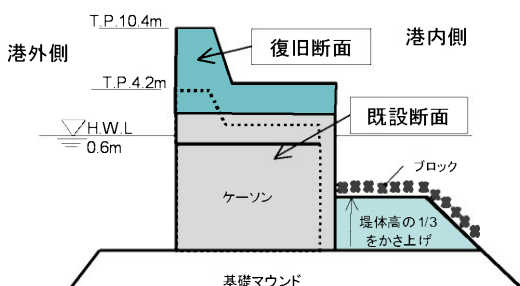
◎ねばり強い構造

基礎マウンドをかさ上げし、ケーソンの滑落に抵抗するとともに、かさ上げ箇所をブロックで覆い、基礎マウンドの洗掘を防止する構造で復旧。

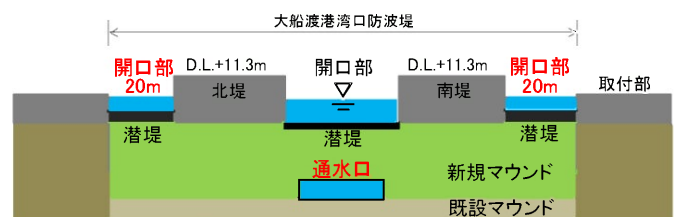
◎水質環境に配慮した構造

両端の開口部を 20m 開放し、水深 10m の潜堤を設置。また、中央開口部に通水口 (面積約 150 m²) を設置することにより、海水交換の促進を図る。

粘り強い構造 (イメージ)



水質環境に配慮した構造 (イメージ)



一関工業高等学校土木科1・2年生による沿岸部現地調査

～ 災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり ～

大船渡土木センター

一関工業高等学校においては、授業の一環として工事現場等の現地調査を実施しています。昨年度は震災の影響で中止となりましたが、今年度は当センター管内の現場を視察していただきました。

同校土木科の1・2年生が高田地区海岸、三陸沿岸道路（高田道路） 大船渡港の現地を視察し、担当者の説明を熱心に聞き入っていました。視察後の質問では、こちらの担当者を驚かせるような鋭い質問もありました。

最後に、生徒の代表からお礼の言葉をいただきました。こちらからも技術者不足が叫ばれる中、将来の土木技術者として復旧・復興に携わって欲しい旨をお願いしました。



陸前高田市災害復興局臼澤局長補佐の説明



1・2年生で総勢約60名の方が視察しました



大阪府からの応援職員である大船渡土木センター笹本技師が説明



松原が流失し、今は仮防潮堤だけがある状況



三陸沿岸道路（高田道路）では、南三陸国道事務所の方が説明



熱心に聞いています。土木にも女性が多くなりました



最初は緊張して出なかった質問も徐々にできるようになりました



大船渡港の説明です



最後に生徒の代表の方からお礼の言葉をいただきました

高田地区海岸の概要など大船渡土木センターの震災復興情報についてはこちら

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=4521&ik=3&pnp=17&pnp=77&pnp=1395&pnp=4521>

被災者向け「住宅再建相談会」を開催しました！！

建築住宅課

岩手県及び関係団体で構成する岩手県居住支援協議会の主催で、関係機関の御協力により、7月8日（日）に県釜石地区合同庁舎において被災者向け住宅再建相談会を開催しました。

この相談会は、より多くの被災者の方々に住宅（自宅）の再建を進めていただくという趣旨で、国や県の支援制度、住宅ローン、地域型復興住宅などについての説明や、個別の相談対応を行いました。

相談会では、多くの方々にご参加いただき、住宅再建への関心・ニーズの高さがうかがわれたとともに、復興を進めるにあたって数多くの課題があることも分かりました。

今後も、関係団体等と連携し、被災市町村を中心に順次相談会を開催していく予定です。

【開催概要】

（開催日時）

平成24年7月8日（日）10：00～、13：30～（午前、午後の2回開催）

（会場）

岩手県釜石市地区合同庁舎 4階大会議室

（内容）

- ①説明会 公的支援制度、住宅融資等について説明。
- ②相談会 公的支援制度、住宅融資、住宅再建関係について、個別に相談対応。
※相談対応者：県（建築住宅課、沿岸広域振興局）、釜石市、住宅金融支援機構、岩手県地域型復興住宅推進協議会（地元工務店等）

（参加者等）

参加者数57人、相談件数42件

（被災者の声）

- ・住宅再建をあきらめて災害公営住宅に入るつもりだったが、住宅再建への希望が持てた
- ・復興支援の情報が多すぎて本当に欲しい情報が見つげにくい
- ・今後の土地利用の方向性が示されないと住宅再建が進められない 等々

<支援制度等の説明>



<個別相談>



[michi-co] (みち・こ) 創刊号のお知らせ

道路環境課

東北「道の駅」公式マガジンとして、東北の地域情報と「道の駅」の魅力が満載された [michi-co] (みち・こ) が創刊されました。

なお、本冊子は、東北全ての「道の駅」に配架していますので、ぜひ御覧ください。

■本情報誌の創刊のコンセプト

1 東北を元気に！

人々が「道の駅」及びその周辺地域に出かけ、みる・たべる・あそぶ・かう・とまるなど、具体的な行動をおこす「きっかけづくり」に！！

2 新しい東北を発見

それぞれの地域に暮らす人々が大切にしている宝、そんな東北の知られざる宝や楽しい宝を情報発信。

遠くの方々には新しい発見を、地元の人たちには誇りを。

3 おでかけ地域情報誌

「道の駅」は、地域社会との共存が大きなテーマ！！通過点としての「道の駅」ではなく、周辺地域も巻き込んだ「道の駅」そのものが観光・レジャーの目的地となる地域情報誌を目指します。

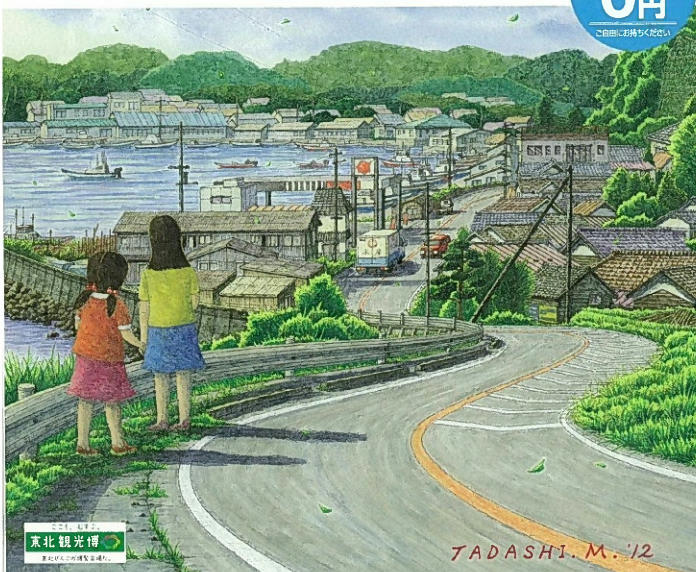
東北「道の駅」公式マガジン 2012.SUMMER Vol.1

[michi-co] みち・コミュニケーション

東北「道の駅」発、お出かけ地域発見情報誌

特集 地域再発見
笑顔あふれる「ならではの味」

創刊号
TAKE FREE
0円
ご自由に持ち帰ってください



[michi-co] 2012.SUMMER vol.1 CONTENTS

04 【特集】地域再発見
笑顔あふれる「ならではの味」

12 地域のために、地域とともに
道の駅・ふたたび

18 【シリーズ】とうほく街道ものがたり
第1回 十三峠街道(山形県～新潟県)

20 ころも、むすぶ。東北観光博「夏」

27 旅ノート●石川啄木没後百年

30 みちえきINFORMATION

33 東北「道の駅」マップ

34 プレゼント/アンケートハガキ

「道の駅」は地域への扉
道路利用者への利便性から出発した「道の駅」。現在は利用者と地域の「共生の場」になっています。道産品に広がる地域との笑顔と繋がり。私たちにはなくてはならない存在です。michi-coは、そのような交流を盛り上げたいと「移動」をしながら、家や家族の拠り所、憩いの場、地域の活性化に貢献したいと考えています。

【特集】道の駅ある風景
宮城県七ヶ浜町吉田浜
距離を省いて早く帰る。そこから戻ってきた感動で再びついで。夏休みに何日か散歩する趣味。「吉田浜」の10数年前のレポートです。震災によってこのような風景は見られなくなりましたが、被災地では復讐に向けて一歩ずつ歩み出しています。「michi-co」では、一歩でも早く以前のようになりたいという願いが込められて、情報発信活動に励んでいます。

【まきプロフィール】
松本 恵 (まつくろ けい)
1979年生まれ。埼玉県出身。東北大学時代に、東北地方の旅行、雑誌「旅」編集。2000年結婚。2001年「宮城新聞」に、仙台市在住の旅行記を連載。2005年からは仙台市在住。第二の故郷と称する東北地方を中心に、各地の自然や文化を愛してやまない。



『森と湖に親しむ旬間』イベントのご案内



河川課

『森と湖に親しむ旬間』（7月21日～31日）は、森林や湖に親しむ事によって心と体をリフレッシュしながら、治水や水資源としての森林整備、ダム・河川などの重要性について学んでもらおうとするもので、全国各地でイベントが開催されております。

岩手県の県営ダムでは、昨年2箇所のダムで開催しました『森と湖に親しむ旬間』イベントですが、今年は5箇所のダムで開催する運びとなりました！

ぜひ、お近くのダムでご家族とともに、森と川とダムに触れ合ってみてはいかがでしょうか？

綱取ダム（盛岡市） 「森と湖 in 綱取 2012！」 平成24年7月27日（金）



<開催場所>

綱取ダム

<実施内容>

- ・ダム施設見学、スタンプラリー・木工教室、魚のつかみ取り
- ・森林浴、植物観察会
- ・ダム湖巡航、築川ダムPRコーナー 他

入畑ダム（北上市） 「遊・YOU・入畑・2012！」 平成24年7月28日（土）



<開催場所>

入畑ダム他3会場（入畑発電所、岩手中部浄水場、夏油高原）

<実施内容>

- ・ダム施設見学、発電施設見学、浄水場施設見学
- ・湖面パトロール、スタンプラリー・ダムライトアップ 他

鷹生ダム（大船渡市）「第5回五葉湖畔の集い」 平成24年7月29日（日）



<開催場所>

鷹生ダム

<実施内容>

- ・ダム施設見学、グラウンドゴルフ大会
- ・木工教室、森の工作館エコーゴ展示
- ・ボート体験、気仙スギ積み木競争・復興祈念植樹 他

早池峰ダム（花巻市）「森と湖に親しむ子どもまつり」 平成24年7月30日（月）



<開催場所>

早池峰ダム

<実施内容>

- ・ダム施設及び発電所の公開
- ・カヌー体験、木工細工教室
- ・湖面パトロール
- ・魚のつかみ取り、稚魚放流 他

滝ダム（久慈市） 「長内川川まつり」 平成24年8月5日（日）



<開催場所>

滝ダム、長内川河川敷（新街橋上流左岸）

<実施内容>

- ・ダム施設、発電所の公開、湖面パトロール
- ・カヌー、カヤック体験
- ・イワナつかみ捕り、リース製作、木工教室 他

3県(岩手・宮城・福島)土木部長等合同要望

～東日本大震災津波からの復旧、復興に向けて～

県土整備企画室

平成 24 年 7 月 20 日 (金)、東日本大震災津波で甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の土木部長等が国土交通省を訪問し、**東日本大震災津波からの復旧、復興に向けた 3 県合同要望を実施**しました。

3 県の土木部長等は、発災からこれまでの間、各県が抱える課題や取組み状況等について 5 回の連絡調整会議を開催し、協議や意見交換を行ってきました。

今回、平成 25 年度政府予算の概算要求に向けて、**被災地の復興財源を確保するとともに、既存の枠組みを超えた強力な復旧、復興対策に取り組んでいただく**よう、3 県の土木部長等が合同で国土交通省各局に要望を行ったものです。

このうち、道路局では「復興に向けた広域道路ネットワーク網の整備促進」について要望しました。三陸沿岸道路や常磐自動車道等の縦軸ライン、太平洋沿岸と東北自動車道等を結ぶ横軸ラインが震災による救命救急活動や緊急物資輸送などに利用され、「命の道」として重要な役割を果たしたことを踏まえ、道路局長からは、「東日本大震災の記憶が風化しないように、我々も被災地からも発信し続けたいといけない。一緒に取り組んでいきましょう。」とのお話を頂きました。

今後も、被災 3 県をはじめ、東北地方の各県と連携しながら、復旧復興に向けた課題を解決するとともに、国に対する要望を行なっていくこととしています。



道路局における要望

3 県合同要望 要望項目一覧

- 1 復興関連予算の確保と地方負担に対する軽減措置
- 2 平成 23 年度明許繰越に係る事故繰越制度の弾力的運用
- 3 復旧・復興工事における施工対策
- 4 公共土木施設の災害復旧費及び国直轄災害復旧事業の地方負担に対する震災復興特別交付税措置の継続
- 5 災害復旧事業の制度改善等
- 6 津波復興拠点整備事業の 1 市町村あたり対象地区数及び面積要件の緩和
- 7 防災集団移転促進事業に係る移転対象地区外個別移転者への支援の制度の拡充
- 8 事業用地の円滑な確保に向けた特例措置
- 9 復興に向けた広域道路ネットワーク網の整備促進
- 10 港湾施設の復旧に対する支援
- 11 災害公営住宅整備事業に対する財政支援の拡充

国土交通省要望（訪問）先

国土政策局	局長
土地・建設産業局	局長
都市局	技術審議官
道路局	局長
住宅局	局長
港湾局 計画課	課長
水管理・国土保全局	
防災課	総括査定官

3 県要望者

岩手県県土整備部	若林部長
宮城県土木部	橋本部長
	(代理) 遠藤次長
福島県土木部	渡辺部長